

NDC対応で 旅をトータルサポート

将来的に、航空券を中心とする旅行関連商品の流通を革新する力を秘めた新流通規格(NDC)。
この新たな力を、どうすれば旅行会社のビジネスに落とし込めるのか。
アクセス国際ネットワークは取り組みを進めている。

アクセス国際ネットワーク（以下アクセス）はNDC導入に先駆け、2017年3月よりリッチコンテンツやアンシラリーサービスなど、従来では実現できなかった幅広い情報の提供が可能な予約発券端末「AXESS CREA Advance」の展開を開始、18年6月末には全ユーザーにて利用できる環境を整えた。

アクセスの戦略的パートナーであるトラベルポートは17年12月にIATA（国際航空運送協会）のNDC認証で最高のレベル3を取得。19年にはNDCコンテンツ提供が可能となる。アクセスもパートナーシップを生かし、AXESS CREA Advanceを通じたNDCコンテンツ提供を実現するためのバージョンアップを予定しており、本格的なNDCコンテンツの提供準備を進めている。

すでにNDC対象のコンテンツを扱う基盤は整っているため、コンテンツの提供が始まれば速やかに対応できる。アクセスは旅行会社の利便性を重視し、旅行会社のワークフローを変更せずにNDCコンテンツを活用できるようにしていく方針だ。例えば、BSP精算となる場合にはその精算データをすべてデータ管理システム「URI-Pro」に集約し、旅行会社がこれまで通りの運用で、精算管理ができるよう対応を検討している。

NDCを有効活用するためには、航空会社と旅行会社の展開方針のすり合わせや、ビジネスモデルの

見極めも重要となる。アクセスでは旅行会社ができるだけ現状のビジネスモデルを守りながらNDCを活用できるよう工夫しつつ、航空会社とのNDC接続の作業を個社ごとに推進する。個々の航空会社との具体的なNDC展開については、来年に向けて徐々に発表していく予定だ。

NDCはタビマエからタビナカ、タビアトまでトータルに幅広く力を発揮でき、旅行会社の価値を高める有効な手立てでもある。旅のシーンに合わせNDCをどう活用していくのか。航空会社、旅行会社、GDSの3者がそれぞれに考え、個性をどう発揮すべきかの判断を下すことが重要となる。

●アクセスのNDCの取り組み

- ・ AXESS CREA Advanceを通じたNDCコンテンツの提供
- ・ NDCコンテンツの精算（BSP精算）のデータはURI-Proに集約

顧客情報に基づいたソリューション提案で旅行会社の提案力アップ



BSP 精算データの集約



●NDCの活用の流れ

